



酒匂の清流

令和4年2月1日(火)発行

校長 津田 将美

歴史の一步を ふみ出す

松田小学校新校舎が完成し、いよいよ本日より新校舎に入ることができます。とは言っても、まだ引越し作業が終わっていませんので、本格的に新校舎での生活が始まるのは、14日(月)からです。グラウンドがない状態が続いていますが、体育館は旧体育館の取り壊しが始まるまで、新旧両方使える予定です。これもなかなかできない経験だと思います。



いよいよ歴史の一步をふみ出す瞬間がやってきました。

酒匂の清流第10号で紹介した大脇良夫さんから、新しい資料をいただきました。(下図参照)この号では、令和4年～：校舎北側、昭和48年～令和4年：校舎南側、昭和29年～昭和48年：校舎北側、昭和29年以前：校舎南側と位置を入れ替えながら校舎建築が行われていることを紹介しました。これは開校百年記念誌を根拠に紹介したのですが、実は昭和29年以前は校舎の位置の記録がなかったため、そのような表記になりました。

いただいた今回の資料からは、大正初期の松田小学校の校舎は北側だったことがわかります。当時は「お茶屋学校」と呼ばれ、正式名称は「尋常高等松田小学校」であったということです。昭和29年以前も校舎は北と南の移築を繰り返していたようです。そう考えると、更に歴史の重みを感じます。

これから引越し作業が業務の中に大きな比重をしめるようになってきますが、日常の教育活動にできるだけ負担がかからないように配慮していきます。子どもたちと共に、この歴史的な一步を少しでも前向きな気持ちでふみ出していけるよう努めて参ります。

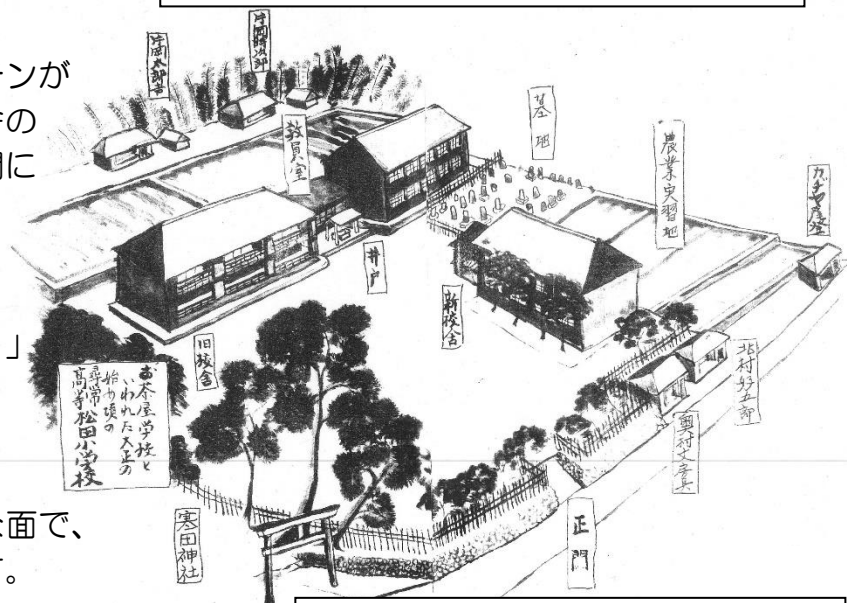
松田小学校 校名の変遷

- 貫穿舎支舎 (本舎は川村小) 明治6年～
- 松田学校 (貫穿舎より分離) 明治12年～
- 尋常松田小学校 明治25年～
- 尋常高等松田小学校 明治31年～
- 松田国民学校 昭和16年～
- 松田町立松田小学校 昭和22年～
- ～松田小学校ホームページ「沿革」より～

校長室の窓はふだん、レースのカーテンがかかっていますが、子どもたちが新校舎の様子を見たがる時には、カーテンを全開にします。目の前にそびえる校舎に、歓声が上がります。

「新しい校長室にも来ていい？」
「いいよ。でも広さはこの半分くらい。」
「そうなの、かわいそうだね。」
「せまくても、がんばってね。」
「あ、ありがとう…。」

諸々の課題はありますが、いろいろな面で、いつも子どもたちには励まされています。



手づくりの修学旅行から始まること

6年生の学級便りに、子どもたちの感想が掲載されていましたので、担任の了解を得てそのいくつかを紹介します。

- ぼくはこの修学旅行で、「主体的に取り組むことの大切さ」を知りました。修学旅行はルールで困らなかったし、何より楽しかったです。これは「主体的に取り組んだから」だと思います。これから色々なことに主体的に取り組もうと思いました。
- お弁当の時間が一番、楽しかったです。なぜかというと、いつもは机で一人で食べてたけれど、今日はみんなといっしょに、レジャーシートをしいて、集まって食べられたからです。みんなとおやつも食べました。
- 私たちの班は、次どこに行くか、みんなでちゃんと乗れるか、時間はあるかを考えて行動できました。みんなと修学旅行に行けて本当によかったです。
- あらかじめ計画しておいたアトラクションが、予想より長い待ち時間で、計画を変更しました。集合時間に間に合わせるように、時間を守って行動することを今後も大切にしていきたいです。

自分たちの楽しみ以上に、しっかりときまりを守って主体的に動くことができたことが、子どもたちの満足感、自信につながっていることがうれしかったです。私が共に過ごして心地よかったのも、子どもたちのこのような想いが自然と雰囲気として表出されていたからだと思います。

残り少ない小学校生活ですが、修学旅行から始まることもあるはずです。一人ひとりの想いを大切に、いい2月、3月を過ごしていけるといいな、と思いました。

かたちあそび 1年生

今年度最後の授業研究会が21日に行われました。様々なかたち（立体）を使った活動を楽しむことで、そのかたちの特徴に気付き、仲間分けをしました。豊かな学びの場となりました。



イワツバメ

「校長先生、新校舎になったら、イワツバメはどうなるんですか？」

登校指導中に、ある子からこんな質問を受けました。実はそれは、昨年度の6年生も心配していたことで、それだけイワツバメが松田小学校の子どもたちに親しまれ、大切にされている証拠なんだと思います。

その質問を受けたときに、生物に詳しい先輩の先生にイワツバメは校舎建築のさなかでどうなるのかお聞きしました。

イワツバメは4月頃から日本にもどってきて巣作りを始めるそうです。「もし、昨年まで自分たちで巣をつくった場所がなければ、また別の場所に新しい巣を作るから大丈夫だよ」と言われました。昨年の6年生は、それを聞いて安心したようでした。その子に同じことを伝えました。

「そうですか。よかったあ…。」

ホッとしたその笑顔がとてもあたたかかったです。松田小学校のイワツバメも多くの人に見守られ幸せだなあ、と感じました。

校長室にもどってから、ひとつ心配が頭をもたげてきました。もし巣を作ってから、或いは卵を産んでしまってから取り壊しが始まったら大変だ…。イワツバメが日本に戻ってくる頃には、まだ旧校舎が存在しているので、そのことを町の担当の方に確認しました。業者に聞いていただき、「その頃は、足場や囲いができているので、旧校舎には巣を作ることはありません。」とのお返事。ホッと一安心です。

新しい環境の中で、イワツバメはどこに巣作りをするのでしょうか。私たちもお引越しですが、イワツバメもお引越しです。

できれば私たちの目にするところができる場所に新居を構え、伝統あるPTA 広報誌の「イワツバメ」も、その名を存続してもらえるといいな、と思いました。

イワツバメ

4月ごろから岩場や人工物に巣を作って繁殖する。集団で行動し、巣の近くを長時間飛び回る。ほとんど地面に降りることはないが、巣材を集めるために時々地面に降りてくる。

～目に見える生き物図鑑より抜粋～

